

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立松梅小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革については、退勤時刻の厳守や校務の効率化など職員の意識を高め、週当たりの超過勤務45時間以内を達成することができた。 学力向上については、公開授業と研究会の実施や家庭学習パワーアップ習慣等の取り組みで教師の指導力向上と家庭学習についての保護者の協力が得られた。「個人カルテ」の活用が今後の課題である。 地域連携等においては、コロナ禍のため活動を縮小したが地域人材リストの作成を進めた。今後も登録を進め、地域人材組織の活性化につなげていきたい。
---------------	--

2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の中で、個に応じた子ども理解の上に立ち、多面的・多角的視点で学習支援を工夫し、基礎・基本の学力の定着・学習習慣の確立を図る。 地域との連携を充実し、総合的な学習の時間を中心に「松梅学」に取り組み、地域貢献事業を積極的に実施する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●5、6年生の12月テストで学力向上対策評価シートに示した到達目標を達成する。1～4年生はCARTテストで全国平均と同等を達成する。	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修で取組の推進を図る。 ・「授業づくりのステップ」等を活用し、授業改善に取り組む	B	「成果指標を意識して取り組むことができた」という職員アンケートでは肯定的な回答が100%であった。12月末までにマイプランの達成率は約90%だった。 ・「授業改善に努めた」という職員アンケートでは肯定的な回答が90%であった。学力状況調査結果を見ると、5年生の国語・算数は到達目標を達成している。6年生の国語も目標をやや下回ったもののほぼ達成したといえる。算数は、「思考・表現・判断」に課題が残った。「個人カルテ」を授業に生かし、多面的・多角的な視点で学習支援を工夫していく必要があった。	B	・少人数の教職員で協力して対応している点が評価できる。 ・全職員がマイプランの成果指標を意識して学習指導に取り組んでよかった。 ・9割の職員が授業改善に努めていると回答できているところが素晴らしい。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
		○児童に授業への取り組み方や授業内容を振り返らせ、主体的な学びを促すための「ふりかえりシート」を作成し、活用する。 ○学習カルテや学習相談を生かし、朝のスキルタイムを充実させる。	○学期末の児童アンケートで「その時間の学習について振り返ることができたか。」という質問に対して肯定的な回答をする児童が80%以上。 ○学期末の児童アンケートで「朝のスキルタイムは、自分の学習に役立ったと思うか。」という質問に対して肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・発達段階に応じた「ふりかえりシート」を作成し、授業に生かす。 ・朝のスキルタイムでは、学習カルテや児童との学習相談などを生かし、個に応じた学習課題に取り組ませる。	A	・校内研究では、授業研究会を通して「振り返りシート」や「主体的な学び」について考えを深めることができた。児童アンケートの「その時間の学習を振り返ることができたか。」では肯定的な回答をした児童は90%であった。 ・朝のスキルタイムは、定期的に教育相談を行い、子供たちが主体的に取り組める環境を整えることができた。児童アンケートで「朝のスキルタイムは自分の学習の定着につながったと思うか」という質問に対して肯定的な回答をした児童は88%であった。	A	・「振り返りシート」を授業研究に生かし、学習の振り返りを適切に行っている点が良い。 ・朝のスキルタイムの環境整備やICTの活用、定期的な教育相談により児童が主体的に取り組むことができている所が評価できる。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他社への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・道徳の学習等で意見交流を通して様々な価値観をもたせることができた回答する職員を7割以上。 ・人権教室を通して、思いやりや命の大切さに気づき、生活に生かすことができたという児童を7割以上。	・道徳の学習で、葛藤場面を仕組み、道徳的価値に気づかせ、自己の意識を変えて日々の生活の中で行動できるように促す。 ・平和集会や人権標語、人権作文を通して、命の大切さや公平、公正の大切さに気づかせる。	A	・職員アンケートの「意見交流の場を仕組んでいる」では9割の職員が肯定的な回答をしており、道徳の授業の意見交流を通して様々な価値観に気づかせることができた。 ・障がい者理解についての人権集会やいじめをテーマとした道徳の全校授業実践も実施し、児童の人権意識の向上を図った。「思いやりをもち、ほかほか言葉を使うようにした」と回答した児童は97%だった。	A	・意見交流の場を仕組んで児童に様々な価値観があることに気づかせることは良い取組である。 ・児童の人権意識向上のための手立てもよくなされている。	道徳担当 人権同和教育担当	
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等に向けて、気になる子等に対して組織的にかかわり、他の職員と協力して児童理解に努めることができた回答する教員の割合が80%以上。	・いじめのない学級づくりのための取組(授業、集会等)を各学級及び全体で行う。 ・職員連絡会後に、気になる児童の共通理解を行う場を設ける。 ・いじめに関する法的解釈等にかかわる研修会や共通理解の場を年3回程度設ける。	A	・気になる子等についての共通理解する場を毎週の連絡会後に各学年の様子を全体で共有する場を設けたことで、組織的にかかわり児童理解に努めることができたことと肯定的に回答した職員が100%であった。 ・心のアンケート等を定期的に実施し、その後の教育相談等において聞き取りを行い、管理職を含めて今後の対応を検討しながら、組織的にかかわりを行うことができた。	A	・いじめ防止に向けて全職員で努力している所が良い。 ・いじめの早期発見・早期対応体制を充実させるために定期的に共通理解の場を設け児童の様子を見守っていることがうかがえる。 ・アンケートの聞き取りも職員間で共有し、早期に丁寧に対応している所が評価できる。	生徒指導担当 保健主事
		◎児童生徒が地域や異年齢層との交流活動を通して、将来への夢や希望を持ち、意欲的に取り組もうとする教育活動	○キャリアパスポートの「ゆめノート」にあげている「できるようになりたいリスト」を7割達成した児童が80%以上 ○地域松梅について知っている児童を70%以上	・総合的な学習の時間における松梅ならではの体験活動や、松梅検定を通して地域への理解を深める。 ・道徳や総合的な学習の時間を通して、自分の目標や夢について考えさせる。	A	・4年生が干し柿について、3年生が松梅について地域のゲストティーチャーを招いて話を聞いたり、調べたことを全校の前で発表したりすることで、地域への理解を深めることができた。 ・道徳や総合的な学習の時間を活用して、「ゆめノート」に継続して取り組んだ結果、ゆめや目標に近づけることができた回答した児童は90%をこえた。	A	・松梅ならではの体験活動や松梅検定などの取組を通して、松梅のことをよく知るようになり、児童の郷土愛が育ってきている所が素晴らしい。 ・コロナ禍ではあるが、児童の経験値を下げないように工夫しながら取り組んでほしい。	教務主任 総合的な学習の時間担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」が守れている児童が95%以上	・年に2回(6月・11月)、調査を行い、児童へ意識付けを行う。その結果を保護者に情報提供して啓発を図る。 ・専門的な知識を持った職員と連携し、TT授業(健康、食育など)を行う。	B	・1、2年生で栄養教諭や養護教諭と連携した授業を行うことで、児童の食や健康への意識を高めることができた。 ・学級指導や「早寝早起き朝ごはん」リーフレットで生活リズムを整える大切さを指導した。12月のチェックでは早起き朝ごはんができた児童が1学期より増え、朝食喫食率はほぼ100%だった。学校評価アンケートでも約90%の児童が「早起き朝ごはんがほぼ毎日できた」と回答した。	A	・「早寝早起き朝ごはん」など望ましい生活習慣を身につけている児童がほとんどであり、評価できる。 ・年度当初の目標設定では児童の実態や前年度の実績等を十分考慮し、成果指標を定める必要がある。	生徒指導担当 保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ●一カ月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える割合を10%以下にする。	・18時15分以降の勤務0を推進 ・定時退勤日の設定 ・校務サーバーのデータを整理し、業務の効率化を図る	A	・9割の職員が業務の効率化に取り組んでいると回答していた。また、4月から12月までで時間外勤務時間が月45時間を超えた職員の割合が10%を超えたのは1回だけで、ほぼ毎月指標を達成した。 ・PCの入れ替え時に、全職員でデータの整理をしたが、継続的には取り組めていない。年度末に向けて、今後も取り組んでいく。	A	・努力がうかがえるが、引き続き職員の業務改善意識を高め、努力してほしい。 ・業務の削減も検討を続けていく必要がある。	管理職	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上においては、校内研修をもとに、学力向上対策評価シートのマイプランの成果を意識した取組を促進した。今後は、授業における学習カルテの活用、子どもの学ぶ力をはぐむ授業づくりに小中で協働して取り組んでいくことが必要である。 心の教育においては、いじめの早期発見・早期対応体制の充実を図ることができた。また、未然防止対策では、いじめをテーマにした道徳の授業実践月間や命の授業、自他のよさに気づかせるためのほかほかの木の実践し全校をあげて取り組むことができた。今後も人権教育の一環として、いじめ防止に努めていきたい。 コロナ禍ながらも松梅ならではの体験活動等に工夫しながら取り組んだ。今後も児童がさまざまな経験をできるよう工夫し、郷土愛をはぐんでいきたい。 業務改善・教職員の働き方改革の推進においては、職員の意識向上がみられ時間外勤務時間の減少など一定の成果があった。今後も業務改善意識の向上とともに業務の削減にも取り組んでいく。
----------------	--